



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第29号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2012-06-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73544
Type	journal
File Information	DRFmonthly_29.pdf





月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第29号

No. 29 June, 2012

【特集1】2012 COAR年次集会・総会参加 レポート

【特集2】名寄せについて考える

【トピック】DRF関係 注目のイベント速報

特集1 2012COAR 年次集会・総会参加レポート

5月21～22日にスウェーデンのウプサラ大学図書館でCOARの年次集会・総会が開かれました。DRFから北海道大学の城恭子さんと大阪大学の土出郁子さん、国立情報学研究所から武田英明先生が参加しました。その様子を土出さんに報告していただきました。



■今回はどういう内容でしたか？

「WG会議」「総会」「発表」などがありました。

●WG会議

各WGの2012-14年の活動計画策定に向けた会議です。

WG1:Repository content

コンテンツ充実のためにCOARとして何ができるのか話し合いました。Mandateに向けたアドボカシー運動推進には、組織のトップを説得できるだけの根拠が必要。そのために、今後も継続して国際的に優良事例を集めていくことを確認しました(優良事例として、日本の「hita-hita」が紹介されました。)

WG2:Repository interoperability

リポジトリの相互運用性に関するガイドラインやロードマップの策定に向け、様々なプロトコルや既存のシステムの情報を集めることなどを話し合いました。

WG3:Support structures for repository networks and training for repository managers

使用言語の障壁は引き続き最大の課題ですが、今後、メンバーが使用している研修用の教材や啓発資料、関心のあるテーマの持ち寄り、独自で解決できない問題の解決などに努めていくことになりました。

COARとは？

オープンアクセスとリポジトリの様々なネットワークを世界規模でつなぐ、日本でいうDRFのような団体。2009年10月の設立時には日本からDRFとNIIが参加。年次集会・総会は今年で3回目 (→月刊DRF第2号参照)



WG3の様子
右端が土出さん

●総会

各活動報告と来期理事会(10月～)の選挙がありました。今年が任期(3年間)の最終年度にあたる小樽商科大学の杉田課長も紹介されました。杉田さんお疲れ様でした！

●報告・テーマ別ワークショップ

各参加組織からプロジェクトや現状報告がありました。日本からは武田先生が「ネットワーク:研究者、システム、担当者の人的コミュニティ」という視点で、研究者リゾルバー、JAIR Cloud, ROAT, SCPJ, DRFを紹介されました。

ポスターセッション(10組織)ではDRFも出展し、コミュニティの活動や研修内容について説明しました。



武田先生の発表



「ポスター2分間発表」をする城さん

■どういう点が特に印象に残りましたか？

「日本と共通の問題点」が多く見られたことです。

例えば、研究業績DBとの連携についてです。研究者総覧(CRIS)システムと機関リポジトリの連携、アクセス統計、インパクトファクター重視の研究業績評価とOA、Googleからの可視性向上などが話題になりました。日本の統計ツールROATや、DRFの研修プログラムにも質問を受けました。中堅担当者研修でみんなが決意表明をしている写真をポスターに入れたところ、「いいねこれ。COARでもやれるね」とのコメントも頂きました。



最近の機関リポジトリの話題に名寄せという言葉がしばしば出てくるよね。これはどういうことなんだろう？ 私たちと、どのような関係があるのかな。今回は「識別子プロジェクト」を進めている金沢大学に聞いてみたよ。

機関リポジトリによって「研究成果」はどんどん公開され、Web上で読めるようになってきました。ですが、ある研究者の研究成果の一覧が必要な場合があります。このとき、あちこちの機関リポジトリに登録されている研究成果をまとめるためにはどうすればよいでしょうか。

例えばこういう研究者の場合

- B大学では4種類の表記
- A大学—院生時代「金沢, りほこ」
 - B大学—助教時代「金沢, りほこ」「Kanazawa, Rihoko」
 - C大学—准教授時代「金沢, りほこ」「Kanesawa, Rihoko」
 - C大学—准教授時代「石川, りほこ(改姓)」
 - D大学—海外勤務時代「Ishikawa, Rihoko」
 - B大学—教授になった後「石川, りほこ」「Ishikawa, Rihoko」

ホントはカナザワなのにカネサワで掲載されちゃった

この研究者の研究成果は「4つのIR」に「5種類の表記法」で登録されています。名前の表記をチェックするだけで、この研究者の論文を一覧できるでしょうか？

同定が難しい例

鈴木, 一朗 = Ichiro, Suzuki

斉藤 = 斎藤 = 齊藤

Soichiro = So-ichiro

= Sohichirou

鈴木, 博 (同姓同名いっぱい)

この例のように、名前の表記を利用して一覧を作ろうとしても、表記にユレがあったり、同姓同名の人も一緒になったりして、うまくいきません。

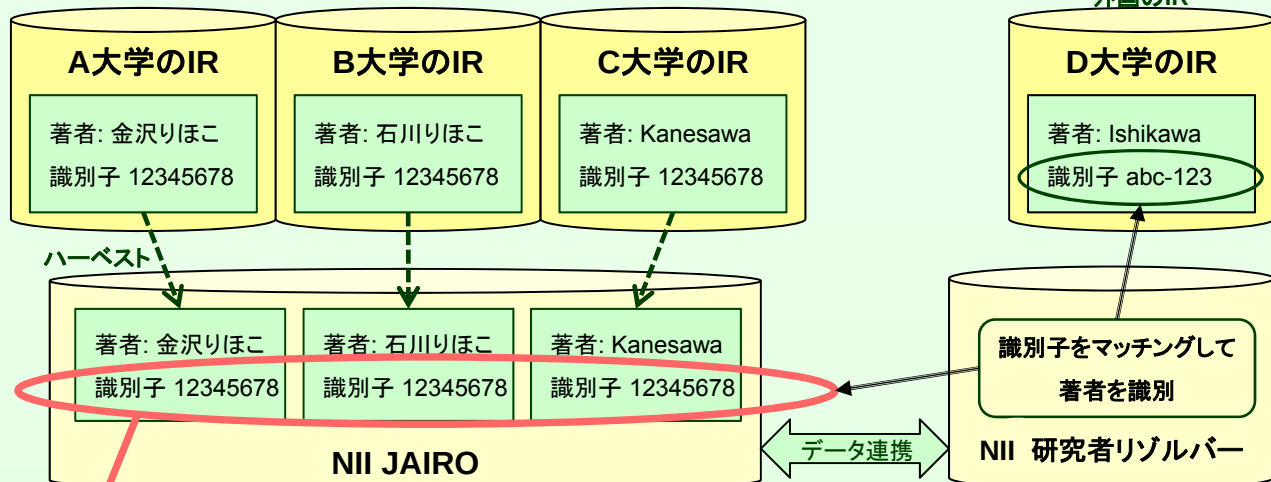
そこで金沢大学では、DRFの活動課題である「識別子プロジェクト」の一環として、著者ごとに一意の番号を与え、その番号で一覧を作成できる仕組みの構築実験を進めてきました。この「著者ごとに与えられる一意の番号」のことを「著者識別子」と言います。

著者識別子を利用すれば、著者(すなわち、研究者)の同定・識別をすることができます。このことを「名寄せ」と呼んでいます。

では、著者識別子には何を使えばよいでしょう？ 幸いなことに、日本には「科研費研究者番号」というものがあります。科研費研究者番号は、研究者が機関を異動しても同じ番号のままでよく、また、別の人に同じ番号が付与されることもありません。金沢大学の実験でも科研費研究者番号を著者識別子として利用しました。

さて、各機関リポジトリに研究成果を登録するときに、機関に関係なく同じ著者を表す識別子を登録しておき、JAIROに集約することができれば、JAIRO上で「同じ研究者の研究成果の一覧」を作ることができます。

金沢りほこ (=石川りほこ)さんの場合



識別子が同じ論文がまとめられる！

日本では科研費研究者番号などを利用して同定・識別できますが、海外のIRと科研費研究者番号で連携することは難しいです。NIIでは、現在世界的な著者識別子としてプロジェクトが進んでいるORCIDと、国内の研究者リゾルバーIDとをマッチングして、世界的な著者同定・識別を行うことを研究中です。

「名寄せ」のために各機関のIR担当者がすることはたった2つです

1. 自機関所属の研究者についてのみ、識別子を入力する。
2. junii2形式での送信の際に識別子も出力するようにcrosswalkを改修する。

DSpaceなら

DSpaceを利用している機関の方は、ぜひ ver.1.6 以上にバージョンアップしてください。著者識別子の入力・管理が格段にしやすくなっています。その他のシステムでも著者識別子の登録ができるようになってきていますので、ご検討いただければと思います。

オススメの識別子

識別子に迷った場合は、NIIの研究者リゾルバーのIDをおすすめします。研究者リゾルバーは、科研費研究者番号のある著者はその番号を含んだ番号で、また、ない著者については独自の番号で登録できるように対応しているからです。

研究者と論文を結びつけよう

研究成果に著者識別子が紐付けされることで、研究成果と研究者情報との相互連携が容易に行えます。たとえば、各大学の業績データベースなどの「研究者情報」と機関リポジトリの「研究成果情報」との相互リンクも可能です。リポジトリの論文から、研究者紹介ページへ跳べるなんて、嬉しい不是吗？

寄稿：守本瞬（金沢大学）

なるほど、各大学で自分たちの先生の識別子を入力しておけば、機関を移った先生の研究成果も一覧できるようになるわけだね！ さらに、NIIでは、国際的に活躍する先生の名寄せもどうするか考えてくれているみたい。

今のうちから始めておけばラクかもしれないね！



DRF関係 注目のイベント速報

rliaisonプロジェクトワークショップ開催決定

9月11日(火)午後 東京歯科大学水道橋本館校舎13-C (JR水道橋駅徒歩0分)

機関リポジトリのコンテンツ増進のための、制度構築(座長:土屋俊)と意識喚起(座長:竹内比呂也)をテーマとした2セッション構成のワークショップを開催します。

学内ステイクホルダーとの相互理解の向上は、論文登録促進に留まらない恵みを大学図書館にもたらしめます。関連動向やGood Practiceを共有し、図書館活動の新たな展開への見通しにつなげましょう。近日中に、DRF公開メーリングリスト上で発表募集を行います。多くの機関事例のご応募をお待ちしています。

主催: DRF liaisonプロジェクト(小樽商科大学, 北海道大学, 帯広畜産大学, 旭川医科大学, 聖学院大学)
共催: 東京歯科大学

医学系ワークショップ DRFmed-mis29

8月26日(日) 聖路加看護大学
「第29回医学情報サービス研究大会
築地大会」にて開催します

プログラム・参加申込はこちら
<http://mis.umin.jp/29/index.html>

DRF機関リポジトリ研修 日程決定!

平成24年度 新任担当者研修

8月23~24日 筑波大学
9月 6~7日 岡山大学
10月18~19日 国立情報学研究所

平成24年度 中堅担当者研修

9月26~28日 場所未定

※ 詳細はDRF Wiki等でお知らせします。

DRF企画協力 SPARC Japanセミナー

「eLife」誌編集長のマーク・パターソン氏

を招いて8月23日(木)に開催!

「eLife」は、米国ハーワード・ヒューズ医学研究所、ドイツ マックス・プランク協会、英国ウェルカム・トラストが共同で創刊するオープン・アクセス・ジャーナルです。研究助成団体が主宰する学術雑誌という、これまでにない性格を持っています。DRF8、昨期のSPARC Japanセミナーで取り上げられた「OAメガジャーナル」に続き、オープンアクセス活動の画期点となりそうです。詳細、参加申し込み等はNIIからのアナウンスをお待ちください。

参考URL

SPARC Japan イベント案内:
<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/index.html>
[drf:2918] eLife Re: PLoSインタビュー:
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drfrm1/msg02903.html>

DRF公式サイト DRF Wiki は

みんなで作っている
機関リポジトリ情報の
宝庫です。
ぜひご覧ください。

月刊DRFアンケート 回答募集中!

あなたの意見が誌面を変えるかも
しれない...

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html



Digital Repository Federation

DRF wiki

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/dr/>

DRFの
活動課題は?

研修に
参加したい!

リポジトリを
立ち上げたい!

コンテンツを充
実させたい!

DRFについて

- » DRFについて
- » 参加機関
- » メーリングリスト
- » 第3期活動課題
- » 月刊DRF
- » 国際連携
- » 研修
- » DRF in English

イベント情報

- » これからのイベント
- » 終了したイベント
- » 関連イベント
- » List of Events
- » OAWeek 2011

リポジトリをつくる

- » リポジトリをつくる
- » 各機関運用指針一覧
- » リポジトリシステムを試す
- » 事例報告集

リポジトリを育てる

- » リポジトリを育てる
- » 実務のための関連資料
- » 技術関連情報
- » 運用議論あれこれ

お知らせ

- デジタルリポジトリ連合は英国の関連組織と国際連携の覚書
を交わしました!(平成24年3月1日)

DRF schedule

2012年 5月						
日	月	火	水	木	金	土
29	30	5月1日	2	3		
6	7	8	9	10		
13	14	15	16	17		
20	21	22	23	24		
27	28	29	30	31		

予定を表示するタイムゾーン: 東京

Digital Repository Federation

デジタルリポジトリ連合(Digital Repository Federation)では、
での情報共有、意見交換を直し、国内における機関リポジトリの発
達。第三期活動(平成22~24年度)では、ここ(第3期活動課題)で
取り上げ、そのための課題として取り上げ、DRFという広

次号
予告

【特集】平成23年度CSI委託事業報告交流会 レポート

ほか

月刊DRFでは、みなさまからのお便りをお待ちしています。 gekkandrf@gmail.com

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/gekkandrf/> 月刊DRF第29号 平成24年6月1日発行 デジタルリポジトリ連合